

一宮市 博物館 だより

もくじ

- 一宮の歴史と文化～江戸時代の暮らしと文化～…… 2
- 尾張平野を語る17・1月企画展紹介…………… 3
- 体験!自由研究の“タネ”回顧録…………… 4
- 民俗探訪…………… 6
- 博物館アルバム(平成24年度上半期)…………… 7
- 平成24年度催し物のご案内…………… 8

No.50 2012.10



古文書群(一宮市博物館蔵)

〈開館25周年記念特別展〉

一宮の歴史と文化

～江戸時代の暮らしと文化～

平成24年10月13日(土)～11月18日(日)

【休館日】毎週月曜日 会期中の休館日10月15日(月)・22日(月)・29日(月)、11月5日(月)・12日(月)

【開館時間】午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【観覧料】一般300円(240円)、高校・大学生200円(160円)、小・中学生100円(80円)

※()内は20名以上の団体料金

一宮市は、尾張平野の肥沃な土壌に育まれ、木曾川の恵みのもと、縄文時代中期から人々が暮らしはじめ、以降弥生時代、古墳時代、古代、中世、近世、近代を経て、現在まで、尾張地域の歴史と文化の中心的な役割を担ってきました。

その中でも江戸時代は、美濃路・岐阜街



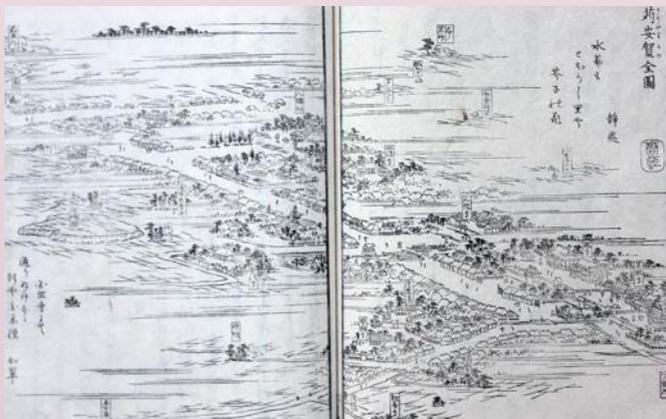
時之島村絵図(時之島村大野家文書・一宮市博物館蔵)

道など街道が発展し、一宮村の三八市や菟安賀村・起村の市などが繁盛することにより、様々な物的交流とともに人的交流が生まれています。

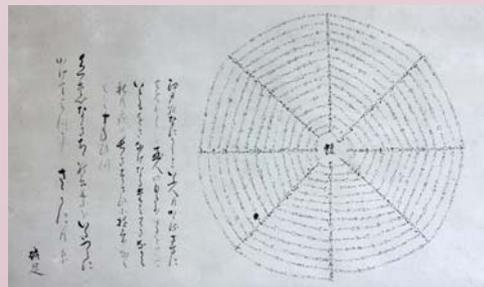
本展覧会では、こうした江戸時代の人々の生き生きとした暮らしと文化を、これまで収蔵してきた古文書や、市内に残された歴

史資料から描き出していきたいと思えます。

江戸時代の一宮市域には、百二十八カ村がありました。この村は、かつての大字に該当します。私たちが住む地域の姿と江戸時代の姿を比較すると、現在と変容していることがわかんと思えます。またかつて一宮市域には、美濃路と岐阜街道がとおり萩原宿・起宿・一宮宿がおかれ、市が開かれるなど尾張西部の中心的な機能をなしていました。また知識人といわれる人々も現れ、地域に影響を与えていました。彼らが現れる背景には、交通の要所・市の開催をとおして都市文人との深い交わりがありました。一方、彼らの才



刈安賀全図(「尾張名所図会 後編巻一」・一宮市博物館蔵)



蜘蛛の巣がき(加藤磯足筆・一宮市指定文化財・一宮市尾西歴史民俗資料館蔵)

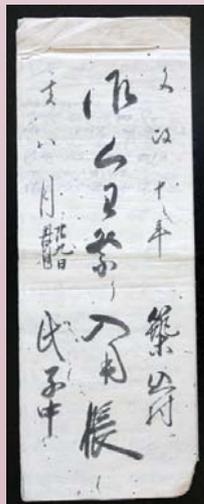
能を育む環境が、その居住空間であるところの「農村」にも整っていたこともありました。当時の農村には、都市文化を享受し、更にまた、それに伍しているだけの力を持つ知識人を育てていく土壌がありました。

一方、江戸時代は、さまざまな信仰が展開し、信仰の多様化をみせる時代でもあり、人々の暮らしの中に根付いた信仰も多くありました。

本展覧会では、江戸時代の一宮の人々の生活の一端を古文書を中心に展示します。



墨八百八肖像画(個人蔵)



御くわ祭り入用帳(築込村加藤家文書・一宮市博物館蔵)

一宮の歴史と文化～一宮を語る～

一宮を語る～最新の研究成果から～

11/10(土) ●午前9時30分～午後4時15分

●講師／					
「自然環境」	愛知県埋蔵文化財センター	調査専門員	鬼頭 剛氏		
「縄文・弥生時代」	愛知県埋蔵文化財センター	調査研究員	川添 和暁氏		
「古墳時代」	愛知県埋蔵文化財センター	調査研究員	早野 浩二氏		
「古代」	名古屋大学大学院文学研究科	准教授	梶原 義美氏		
「中世」	愛知県埋蔵文化財センター	調査研究員	武部 真木氏		
「コメント」	愛知県埋蔵文化財センター	統括専門員	石黒 立人氏		
「中世」	中部大学人文学部	准教授	水野 智之氏		
「美術工芸」	東海学園大学人文学部	教授	渡邊 里志氏		
「近世」	愛西市教育委員会	学芸員	石田 泰弘氏		
「近代」	名古屋文理大学短期大学部	元教授	伴野 泰弘氏		
「民俗」	民俗芸能研究家(一宮市文化財保護審議会委員)		鬼頭 秀明氏		
「コメント」	一宮市文化財保護審議会委員		小川 一朗氏		

1

一宮市は濃尾平野の東北に位置し、縄文時代の中ごろから人々が暮らしはじめ、近世・近代に発達した繊維産業など、現在までさまざまな文化を育みながら尾張の文化の一端を担ってきました。一宮市博物館では、これまで十六回にわたり、自然・考古・民俗・歴史・美術工芸などさまざまな分野の講師をお招きし、尾張平野の歴史と文化を紹介してきました。

今年度は、『新編一宮市史』が編さんされ一宮市博物館が開館して二十五周年を迎える節目の年となります。講座十七回目となる今回は、旧市史を含め市史編さん事業から始まったとも言える当地方の歴史研究の軌跡を、二日間にわたり、多くの研究者とともに振り返ります。そして、次世代につなぐ架け橋にしたいと考えています。

歴史を次世代につなぐ～一宮市史から博物館へ

11/11(日) ●午後1時30分～4時30分

●コーディネーター／	一宮市博物館	元館長	岩野 見司氏
●パネリスト／	名古屋大学	名誉教授	塩澤 君夫氏
	国立歴史民俗博物館	名誉教授	塚本 学氏
	愛知教育大学	名誉教授	吉永 昭氏
	南山大学	名誉教授	新井喜久夫氏
	名古屋短期大学	名誉教授	上村喜久子氏

※詳細は、博物館HP・ポスター・リーフレットをご覧ください。

2

<企画展>

暮らしの中の民具 ～いちのみやの民俗

平成25年1月5日(土)～2月24日(日)

【休館日】 1月7日(月)・15日(火)・21日(月)・28日(月)・2月4日(月)・12日(火)・18日(月)

【観覧料】 一般200円(160円)、高・大学生100円(80円)、小・中学生50円(40円)

※()内は20名以上の団体料金



平成23年度展示の様子

平成三年度から始まった「くらしの道具く今と昔」展が、先年から「暮らしの中の民具」となり、毎年異なるテーマを取り上げて開催することとなりました。昨年のテーマは「竹細工」。市内瀬部周辺で近世・近代に盛んに製作されていたイカキをきっかけとして、竹細工の歴史を探りました。今年度は「いちのみやの民俗」と題し、民俗資料から一宮地域の暮らしの特徴を捉えたいと考えています。



平成23年度レクチャーの様子

りにくくなっています。「織物のまち」の象徴とも言えるノコギリ屋根も減り、今だからこそ「一宮らしさ」を振り返り、郷土の歴史を考えることはとても大切なことであると考えます。

期間中の催しもの

- 平野の道具を使ってみよう!～食の道具編～
- 平野の道具を使ってみよう!～農具・織物の道具編～
- いちのみやの民俗芸能～見る・聞く・学ぶ～
- いちのみやの職人の技～見る・聞く・学ぶ～
- わたしたちの村の祭り～発表会～
- いちのみやの伝統文化を学ぼう～子ども茶会～
- 博物館でフィールドワーク～聞く・調べる・まとめる～
- 民俗芸能公演(島文楽)

※詳細は、博物館HP・ポスター・リーフレットをご覧ください。
※名称は変更になることがあります。

みんなで挑戦！わたしだけの自由研究

体験！自由研究の“タネ”回顧録

□はじめての試み

博物館ではこれまで、学校では得ることのできない体験をおとして、歴史をはじめ学問に対する子どもたちの興味や関心を引き出す講座を継続的に実施してきました。

そこで今年は、八月四日から二十六日まで、夏休み子ども展示「みんなで挑戦！わたしだけの自由研究」に伴い、「体験！自由研究の“タネ”」というテーマで子ども向け催事を会期中毎日実施しました。期間中、歴史・美術・自然など様々な分野の研究者の方々から実際に話を聞き、資料を観察し、考察することで、五感を使った経験をすることができたのではないかと思います。

□二十の講座の内容

◇八月四日

花むすび〜結び技術を学ぶ〜

生活の中にもどのような「結び」があるかを考えながら、紐を使って様々な結びを体験し、角結びでこけしを作りました。一本の紐が、自分の手によって色々な形に変化する様子を楽しく学ぶことが



できました。

◇八月五日

茶臼の謎〜粉になる秘密にせまる〜

お茶の葉が茶臼に挽かれて粉になる様子を実際に観察し、茶臼の構造を学びました。最後にお抹茶とお菓子をいただきました。



◇八月七日

エゴの原点！〜シロの葉でつくるハエタタキ〜

プラスチックができる前、ハエタタキはシロの葉で手作りで作られていました。講座ではシロの葉の違いやシロで作られた蓑などを観察し、電気やガスがなかった頃の暮らしについても考えました。



◇八月八日

「ミル・シル・キット」で博物館はかせになろう！

常設展示室に展示してある展示品について詳しく観察し、何でできているか、どのような用途だったかなどを図書などから調べる方法を学びました。参加したみんなが「博物



館はかせ」に挑戦しました。

◇八月九日

骨パズル〜人とチンパンジーの骨格を比べてみよう〜



骨を研究することで、どのようなことが分かるかを講師の方から教えていただき、実際に実物大の人とチンパンジーの骨格標本を観察しました。そして、

見つけた相違点から人とチンパンジーの違いを学びました。

◇八月十日

土器の文様を分析してみよう！

遺跡から出土した土器には、様々な文様が施されています。その文様がどのような方法で施されたのかを参加者のみなさんでたくさん道具を試し、皆さんの道具を試し、四苦八苦しながら考えました。



◇八月十一日

顕微鏡で見よう！遺跡から出た古代の昆虫化石

遺跡から出土した実物の昆虫を、顕微鏡で観察しました。この



講座では、ヒメコガネとコブマルエンマコガネのハネや頭の部分を観察。参加者のみんなは、熱心に観察スケッチを行い、古代の昆虫化石について学びました。

◇八月十二日

縄文・弥生時代における石製ナイフとその使用実験

縄文・弥生時代の石器について学び、実際に石製ナイフで鹿の角を切断する実験をおこないました。ひたすら石製ナイフを動かすこと数十分、一時間経つても切断できない参加者がほとんどでした。大昔の人が道具を作るのにどれだけ苦労したかを実感した講座でした。



◇八月十三日

粘土をつくる〜東海湖を知る〜

粘土がどのようにできるかを土から粘土を作ることで学びました。岩石が風化することによって粘土になることや、焼き物の種類によって様々な種類の粘土を使い分けたりすることを知りました。



◇八月十五日

七つの宝〜七宝焼のひみつを探る〜

七宝焼について、何からできているのか、なぜ七宝焼という名前なのかなどを学び、実際に七宝焼を製作しました。目の前の窯で焼ける七宝焼を見て、参加した子どもたちは驚きの目で観察していました。



◇八月十六日
和本でつくる絵日記



針と糸で綴じる和本。いつも使っているノートとは作り方が全く違うことに興味津々でした。和本の歴史を学び、自分だけの和本を作りました。

◇八月十七日

調べる！江戸時代のデザイン

江戸時代のデザインである、「紋」について学びました。紋について学んだ後は、実際に「紋切り」を体験することで、様々なデザインについて観察し、調べることができました。



◇八月十八日
大名文化を体験！〜尾張徳川家出張講座〜
尾張徳川家のお殿様・お姫様の文化を実際に学びました。刀をバラ

ラにしたり、火縄銃の構造を勉強したり…。具合合わせや水墨画も体験しました。

◇八月十九日

縄文時代の布を編む



縄文時代の布、アングンを編みました。なかなか編み上がっていかないため、参加者のみんなは真剣そのもので取り組んでいました。縄文時代の人々の大変

さを身をもって学んだ講座でした。

◇八月二十一日

衣装からたどる織りの技術

衣装の元になる糸の構造を、様々な素材の糸を分解すること学び、素材から糸へ、糸から布になるにはどのような技術が必要になるかを考えました。また、弥生時代の布を織る体験もしました。

◇八月二十二日

くらべてみよう！〜昔の食器と今の食器〜

現代にいたるまでの煮炊きの道具・食卓の道具の変遷を実際の資料を観察し、比較しました。時代によって道具の異なる点、同じ点を比べ、考察しました。



◇八月二十三日

絵図を使って犬山城を攻めよう！



犬山城が描かれた大きな絵図を使って、犬山城がどのような場所に建造され、どのような構造をしているかを学びました。最後は、犬山城の攻め方を参加者みんなで考えました。

◇八月二十四日

身近な自然の変化を知る〜モニタリング調査のすすめ〜

妙興寺の森の中を調査しました。調査の仕方を講師から学び、どのような鳥や虫や蝶などが森に生息しているかを参加した子どもたちは熱心に探していました。



◇八月二十五日

私だけのプチアクセサリー〜描く〜は楽しい〜



プラ板でアクセサリーを作りしました。子どもたちはスイカや蝶など、思い思いの図案をプラ板に描き、楽しんでいました。

◇八月二十六日

私が描いてつくる掛軸

掛軸の説明と各部分の名称を学び、墨をするところからはじめました。墨を一度もすったことのない参加者



もいて、悪戦苦闘！しかし、自分ですった墨で紙に様々な絵を描き一本の掛軸にできたことで、掛軸の仕組みを学ぶことができました。

□二十日間を振り返って

毎日の講座では、参加者の人数が始まるまでわからない恐ろしさに耐えながら、「また来たよ！」と笑って来てくれる子、「友達を誘ってきた！」と新しい参加者を連れてきてくれる子、「また明日！」と帰った毎日でした。博物館ではこれからも、子どもたちが体験をとおして様々な経験をえられる講座を続けていきたいと考えています。
(名和奈美)

体験！自由研究の“タネ”	（期日／内容／参加費／講師・依頼先）
8/4(土)	花むすび〜紙ぶ技術を学ぶ〜/300円/糸魚川比呂
8/5(日)	蒸白の餅〜形になる秘密にせまる〜/300円/坪内仁
8/7(火)	エコの原点！〜シュロの皮でつくるハエタケキ〜/不登/久保裕子
8/8(水)	「ミル・シル・キット」で博物館はかせになろう！/不登/アートエデュケーション研究会
8/9(木)	骨バズル〜人とチンパンジーの骨格を比べてみよう〜/不登/高野智
8/10(金)	土器の文様を分析してみよう！/不登/大塚友恵
8/11(土)	顕微鏡で見よう！遺跡から出た古代の昆虫化石/不登/東野結美
8/12(日)	縄文・弥生時代における石製ナイフとその使用実験/不登/川添和雄
8/14(火)	粘土をつくる〜原海淵を知る〜/不登/佐藤一信
8/15(水)	七つの宝〜七宝焼のひみつを探る〜/300円/小林弘樹
8/16(木)	和本でつくる絵日記/不登/石黒智哉
8/17(金)	調べる！江戸時代のデザイン/不登/鳥飼明子
8/18(土)	大名文化を体験！〜尾張徳川家出張講座〜/不登/加藤啓子
8/19(日)	縄文時代の布を編む/不登/名和奈美
8/21(火)	衣装からたどる織りの技術/不登/藤村雄
8/22(水)	くらべてみよう！〜昔の食器と今の食器〜/不登/西松賢一郎
8/23(木)	絵図を使って犬山城を攻めよう！/不登/寺田尚華
8/24(金)	身近な自然の変化を知る〜モニタリング調査のすすめ〜/不登/飯田健一
8/25(土)	私だけのプチアクセサリー〜描く〜は楽しい〜/300円/松本育子
8/26(日)	私が描いてつくる掛軸/300円/山口百子

体験！自由研究の“タネ”ラインナップ

西五城の輪くぐり「行事と地域の人々の関わり」

西五城は一宮市の西部、木曾川のすぐ東に位置します。「五城」という地名は伊勢神宮の斎田を意味する「斎ぎ代」から起こったといわれ、伊勢神宮に供える米を作る田があったことに由来します。

また、西五城は伝承行事が多く残る地域で、無形民俗文化財の「木遣り及び棒振り」は神社や寺を新築する際、柱の角材を担ぎ、地区内を右に左にゆすって行進する祝いの行事で、その際に歌う歌を木遣り音頭と言います。西五城地域に江戸時代中期から伝わるもので、慶長のころに加藤清正が総大将となった名古屋城の構築の際、大きな材木の運搬のときに歌われたのが起源と伝えられています。一旦途絶えたこの行事も、現在は地域の子も

達が伝承し、春と秋の祭りで披露されます。このような歴史と文化が残る西五城の神明社で、八月五日に輪くぐりが行われました。

輪くぐりとは、別名「夏越神事」や「夏越祓」と呼ばれ、夏の無病息災を祈願するものです。輪くぐりという八の字に潜る大きな輪を想像しますが、この輪を現在でも神明社の氏子で作成します。

輪くぐり当日の早朝七時、境内に宮総代と呼ばれる役員が集合して輪をつくる作業が始まります。この際、マコモというイネ科の植物を使用しますが、西五城では昨年からのマコモを神明社の敷地内で育てています。以前は日本全国の川や沼などで多くみられたマコモですが、近年は河川

の改修などもあり、自生する場所が少なくなってきました。まずはマコモを刈りとり、枯れた部分を除いて選別し、それを直径一メートルほどの芯となる藁の輪に巻きつけていきます。一人がマコモの束を土台に巻き、もう一人が縄で芯とマコモを固定するように縛っていきます。マコモの茎の下あたりは紫色をしています。芯に巻いていく際にはこの紫色の部分は隠し、葉の緑色の部分だけを見せて巻いていきます。茎の部分だけを隠すように、さらにマコモの葉を巻きつける作業を一周分繰り返します。

芯を覆うには大量のマコモが必要となるため、巻きつける作業の間にも他の役員が選別する作業を続けています。覆い終えたら最後に細かく縄を巻き、茅の輪が完成します。その後、社殿入口と鳥居の間あたりの土を掘り、土台となる支柱を立て、土台と茅の輪を固定し、できあがりです。この準備には、四時間以上かかりました。

午後三時から開始される神事では、輪を御祓いた後、宮司に次いで宮総代と一般の参拝者が一列になって左廻り、右廻りと、八の字を描くように廻ります。人形の紙人形を付けたヨシを一人一本ずつ持ち、それを拝殿前に納めて参拝します。人形に名前と年齢を書いて自分の身代わりにすることで、罪や穢れを移して夏負けしないとされています。



茅の輪をくぐる様子

他にも起の大明神社、小信中島の堤治神社、北今の北今神社、馬寄の石刀神社など、市域には氏子の手で今でも茅の輪を作成する地域が残っています。夏の無病息災を祈る大事な行事を、現在も昔と変わらぬ手間と方法で継続する努力とその重要性を感じました。

輪をつくる作業には、十一名の宮総代以外に顧問や町会長、宮総代の経験者など、多くの人々が参加します。西五城の輪くぐりは戦後に始まったと言われていますが、毎年皆で協力し、それを次の世代へ伝えていくことは、地域社会の形成に大きな影響を与えるものであると考えます。

最後になりましたが、ご教示を賜りました西五城のみなさんに深謝の意を表します。

(一宮市尾西歴史民俗資料館 鶴飼明子)



① 真菰を刈る



② 茅の輪をつくる



③ 茅の輪を立てる

平成24年度催し物のご案内

※詳細は市広報・ホームページ、または博物館までお問い合わせ下さい。

展覧会

特別展

一宮の歴史と文化

10月13日(土)～11月18日(日)

企画展

2012
一宮市現代作家美術秀選展

12月1日(土)～12月16日(日)

企画展

暮らしの中の民具
～いちのみやの民俗～

1月5日(土)～2月24日(日)

講座・公演

市民文化財めぐり

11月4日(日)

講座

尾張平野を語る17

11月10日(土)・11日(日)

公演

民俗芸能公演(島文楽)

2月24日(日)

博物館収蔵品展「風景と装飾～玉堂と琳派の近代～」

▶平成24年10月20日(土)～11月15日(木)

琳派とは、江戸時代の俵屋宗達や尾形光琳に始まる、装飾的な大和絵の流派です。今回の展覧会では、川合玉堂の風景画に息づく琳派の影響を紹介します。あわせて、一宮市博物館所蔵の江戸時代から近代までの絵画や工芸を展示します。絵画をながめながら、日本の風景を探索してみるのはいかがでしょうか。



金島桂華《四季草花図屏風》 一宮市博物館蔵



川合玉堂《背戸の秋》
木曾川図書館蔵



川合玉堂《長閑》
木曾川図書館蔵

玉堂記念木曾川図書館

【開館時間】午前10時～午後6時

【観覧料】無料

【休館日】10月22日(月)・29日(月)／11月5日(月)・12日(月)

【所在地】〒493-0007 一宮市木曾川町外割田字西郷中25

TEL.0586-84-2346 FAX.0586-85-0480

【交通案内】

・公共交通機関ご利用の場合 名鉄名古屋本線「新木曾川駅」下車、西へ徒歩約15分

・お車ご利用の場合 西尾張中央道「外割田」交差点を西へ約100m

【学芸員による展示説明】

10月24日(水)、27日(土)、31日(水)、11月4日(日)、7日(水)、10日(土)、14日(水)

各回午後2時から 定員なし 申込不要

一宮市
博物館
だより

第50号

発行日／平成24年10月13日

編集・発行／一宮市博物館

印刷／株式会社大東社

利用案内

【休館日】毎週月曜日、休日の翌日

【開館時間】午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)

【観覧料】(常設展・聴講料含む)一般200円(160円)、
高校・大学生100円(80円)、小・中学生50円(40円)

※()内は20人以上の団体料金

※一宮市内小・中学生は無料

※市内在住の満65歳以上で、住所・年齢の確認できる公的
機関発行の証明書等を提示された方は無料

※身体障害者等の手帳を持参の方(付添人1人を含む)は無料

〒491-0922 愛知県一宮市大和町妙興寺2390

TEL0586-46-3215 FAX0586-46-3216

URL <http://www.icm-jp.com/>



【交通】名鉄名古屋本線「妙興寺」駅下車南口より徒歩7分
ニコニコふれあいバス「博物館西」下車徒歩5分